

## 365 日間、積み重ねてきたこと

校長 宮崎真彰

大晦日を迎える時期となりました。

年越しのスタイルは、時代の流れと共に特別感が薄れてきたように思いますが、今年一年を振り返る機会であることは変わらないように思います。

本校におきましては、一年中、校舎・寄宿舎内に児童生徒の笑い声や歌声が絶えることなく響いていました。9月には胆振東部地震がありましたが、変わらぬ笑顔で子供たちが登校してきてくれたことを何よりうれしく思います。

これもひとえに保護者の皆様が、お子さんの登下校を支えていただいたこと、学びを深められるよう医療的ケアの御協力も含めて、お子さんの健康を保っていただいたことがあってのことです。本校の教育活動に御理解と御支援いただきましたことに心より感謝申し上げます。

また、今年の行く年来る年は、平成から次の時代に引継がれる節目でもあります。経済的には、平成時代を失われた20年と言う向きもありますが、障がい児者を取り巻く福祉や教育に関しては、北海道障がい者条例の制定、障害者差別解消法の成立、障がい者権利条約の締結、特殊教育から特別支援教育への転換など社会状況が大きく変化した時代でもありました。次の時代は、合理的配慮の視点から、質の充実が求められることになるでしょう。本校には、先頭に立って地域への理解啓発を果たす使命もあります。障がいの有無を問わず、一人一人の人権と尊厳が尊重される共生社会の形成を願いながら教育活動を展開していきたいと思います。

さらに今年は、北海道と命名して150年の節目の年でもありました。

松浦武四郎の提案の基となった「北加伊道」と綴る加伊には、「この地に生まれた者」という意味があるそうです。先住のアイヌの人たちと全国各地から移住してきた人たちが力を合わせて北海道を拓き創ってきた歴史の根底には、互いの多様性と行動があるのだと思います。

一日一日が積み重なって歴史が創られます。今日を生きることで明日が訪れます。先月、本校の卒業生と保護者に対して、「学校で培ってきた力がどの様に発揮されていますか？」と問うアンケートを行いました。その中に「どこへ行っても安定した気持ちで過ごせています。これはずっと学校で自分の居る場所の周りの人が“自分を支援してくれる人なのだ”という体験を積み重ねてきたおかげだと思います。」という回答がありました。

一日一日を積み重ねるとは、このことだと思いました。よいお年をお迎えください。